

2025 年度 初音が丘地区センター

健康麻雀マナー・ルール

マナー編

0. 『かけない』『のまない』『すわない』です。
1. 「自分に厳しく、人に優しく」を心がけましょう。
2. 「ポン」「チー」「カン」「リーチ」「ツモ」「ロン」の発声は明確に行いましょう。
3. 先ヅモ、牌を強く叩きつける、大声を出す等は絶対にしないでください。
4. 捨て牌は6枚で折り返してください。
5. 対局中の「口三味線」や対局相手への批判など言動には細心の注意を払いましょう。また、局終了後の「解説」も慎みましょう。
6. ゲーム中、手牌は伏せないようにしましょう。
7. あがった時は牌を見やすく並べてから倒すようにしましょう。
8. 点棒の受け渡しが終わるまでは、手牌と牌山を崩さないように。また点棒の受け渡しは、静かに丁寧に場に置いて渡ししましょう。
9. ゲームが始まる前には「よろしくお願いします」、ゲームが終わったら「ありがとうございました」と挨拶しましょう。

ルール編

1. 食いたんあり・後付けあり
2. 東場、南場の半荘戦
3. 25,000 点持ち、半荘終了後、得点をそのまま記入。(例：28,500)
4. 順位点を加減算する。同点の順位は上家が上位になる
(1 位+12,000・2 位+4,000・3 位▲4,000・4 位▲12,000)
5. ノーテンは場に 3,000 点。(親子とも同じ)
6. 連荘は一本場につき 300 点
7. 親がノーテンなら親流れで、オーラスならゲーム終了(供託:トップ取り)
8. 途中流局一切なし(九種九牌、四風子連打・四人リーチ・四槓流れなど)
9. 形式テンパイあり(自分が待ち牌をすべて使っている時は無効)
10. 流し満貫なし
11. あがり者は常に一人のみ(同時あがりは上家優先)
12. 王牌は常に 14 枚残し
13. 役満のパオ(責任払い)は大三元の 3 フーロ・大四喜の 4 フーロ目をポンあるいは大明槓させた時とし、ツモは全額・ロンは放銃者と折半(半額)
14. 30 符 6 翻(60 符 5 翻)は子で 8,000 点、親で 12,000 点
15. 役満は 4 倍満。ダブル役満はなし。役満であってもルール上の特例はない。(国士無双のあたり牌を暗槓された際のチャンカンロンや国士無双 13 面待ちだからといって現物以外のフリテンロンなどは認めない)

16. 数え役満はなし（場ゾロを含めて 15 翻以上でも 3 倍満）
17. 次のルールは採用しない
・人和 ・十三不塔 ・大車輪 ・三連刻 ・カン振り ・二翻しぱり
18. 食いかえはなし
19. フリテンリーチあり
20. リーチ後、アガリ牌をツモ切りしても構わない（フリテンリーチとなる）
21. 一発・裏ドラ・カンドラ・カン裏ドラあり。赤牌はなし
22. ノーテンリーチは流局時、チョンボ扱いとなる
23. 食いたンあがりでピンフ状態の場合は 30 符扱いとする
24. 箱割れ（0 点）は借りて続行する。 ※健康麻雀大会適用ルール

罰則編

1. チョンボ

誤ツモ、誤ロンなどで手牌を倒してしまうなど、ゲーム続行不能にした場合は、親または子に関わらず 3,000 点ずつ残りの 3 人に支払い、その局をもう一度やり直す（その局の供託は出した人に返還する）。

2. 1,000 点罰則

最初に発声したポン・チー・カンができない場合は 1,000 点を供託し、そのままゲームを続行する。（ただし同巡内のロン・ポン・カン・チーはできない。）

ただし、チーあるいはポンと言ってしまったが本当はロンだったという「ポン→ロン」あるいは「チー→ロン」のケースはそのアガリを認める。

3. あがり放棄

誤ツモ、誤ロンで手牌を倒すとチョンボだが、手牌を倒していない発声のみのケースはあがり放棄で局を続行する。あがり放棄となった者はテンパイおよびリーチしていてもノーテン扱いで、ポン・チー・カンできない。多牌・少牌をした場合は、気が付いた時点で必ず「あがり放棄」を宣言する。

※このルールは健康麻雀を推進する多くの団体のルールを参考にして、「健康麻雀初音が丘」がまとめたものです。不備な項目、疑問の点等は、その場で検討していきます。